

「第9回近畿中心市街地活性化ネットワーク研究会」が 姫路市において開催

7月1日（金）午後1時から「第9回近畿中心市街地活性化ネットワーク研究会」が兵庫県姫路市イーグレひめじにて開催されました。

この日は、北は福井県小浜市、京都府福知山市、南は和歌山県田辺市など近畿一円の中心市街地活性化に係わる14の市から行政、中心市街地活性化協議会、まちづくり会社、商工会議所の担当者が、また近畿経済産業局並びに中小企業基盤整備機構本部や近畿支部などからの関係者55名が参加されました。



冒頭に、7月1日付けで異動された姫路市農政経済局の北川俊文前局長より、「姫路城大天守保存修理事業と駅周辺整備事業により姫路は大きく変わろうとしている。熱心に取り組んでおられる皆様のまちづくりを参考にしたい。また、ご当地グルメの祭典 B-1 グランプリを11

月に開催する。皆さんとともに盛り上げていきたい。」と挨拶をいただきました。

その後、姫路市産業・港湾振興課中心市街地活性化推進室の春井浩和氏より「姫路市中心市街地の現状と課題等について」説明を受けました。



姫路市の人口は約53万人、兵庫県下第2の都市で、JR姫路駅から姫路城にかけて約600の商店が集積している。中心市街地に関しては、平成10年に旧中心市街地活性化法に基づく姫路市中心市街地活性化基本計画（旧基本計画）を策定し、平成18年8月に改正中心市街地活性化法が施行されたことを受け、新たな基本計画を策定し、平成21年12月に内閣総理大臣による認定を受けた。

基本計画では、計画区域は約210haで中心市街地活性化の基本テーマ「人々が行き交い未来へ息吹く姫路の城下（まち）～城と駅を核としたまちの魅力向上による「にぎわい」の創出と「活力」の増大～」のもと、2つの目標「人々が訪れ、集い、回遊するまち」、「人々が暮らしたくなるまち」を設定し、姫路城・姫





路駅・商店街がネットワークし回遊性のある、歩きたくなるまちづくりを推進すると説明しておられました。

続いて、姫路市商店街連合会・姫路商業まちづくり協議会の松岡淳朗会長より「姫路市の中心市街地活性化に向けた商店街の取り組みについて」説明を受けました。

姫路市商店街連合会は、中心市街地の11商店街など17団体及び法人で構成しており、賑わい創出事業として、ひめじお城まつり協賛事業、グラムでキャッシュバック事業、年末売出し事業、姫路得とくゼミナール事業を行っている。



また、商店街の活性化イベントとして、西二階町商店街と二階町商店街で『姫路豊座』を開催している。豊座とは商店街に畳を敷いて、みんなで楽しく飲んで姫路のまちについて話し合おうということで始まったイベントで、商店街に400畳が敷かれ、事前に席の予約をしておくだけで、飛び入り参加も大丈夫、また、飲食物の持ち込みもよいとのこと。

さらに、姫路市商店街連合会では、JRの高架化に伴う市の駅前再開発（平成の築城）に対しJR姫路駅周辺整備プラン検討会を設置し駅周辺整備事業のあり方を検討している。平成18年12月に駅前広場の整

備について勉強会をスタートし、平成19年4月に緑あふれる人が集える整備案を市とJRに提案したが、同年11月に姫路市が発表した素案ではバス・タクシー・自家用車のターミナルとしての整備事業であった。市商店街連合会では検討会を再開し、「城・駅・商店街がネットワークし回遊性のある、歩きたくなるまちづくりを推進する」を基本スタンスに、姫路ならではの歴史が感じられまちの回遊の拠点となるにぎわいのある広場をつくるとして、姫路の玄関として門をイメー



ジした眺望デッキや駅と街なかを結ぶ季節や風情を感じさせるサンクンガーデンなど安全、明快さ、魅力づくりの3つの提案を行っている。平成の築城により姫路のまちが大きく生まれ変わり発展していくことを願って、これからも取り組みを進めていくと意気込み強く締めくくりをされた。

引き続き、姫路市農政経済局の鯉塚晃好新局長より、「B-1グランプリについて」お話を伺いました。

B-1グランプリは、グルメイベントではなく、料理を通じて地域をPRすることで、一人でも多くのお客さんに現地に足を運んでもらおうという地域活性化を目的としたイベントで、料理の味の日本一を決めるのではなく料理の味を含めたまちおこし活動の日本一





を競うイベントである。

5月21日（土）、22日（日）の近畿・中国・四国支部大会には、東日本の被災地である石巻、浪江から出展いただき、土砂降りの雨があったにもかかわらず2日間合わせて18万5千人の来場者があった。

本大会は、11月12日（土）と13日（日）、姫路城を取り囲む大手門公園などを会場とし、約60団体の出展の予定で来場者数は約40万人と予測している。また、同時に姫路食博2011というグルメイベントの開催も予定しているので、みなさんで盛り上げていただきたいとのことであります。

続いて、神戸・新長田中心市街地活性化協議会の東朋治氏より「阪神大震災の復旧・復興プロセスと三陸沿岸被災商業地（宮古市）の現状」について、中小企業基盤整備機構コンサルティング課長兼まちづくり推進課参事の長坂泰之氏より「東日本大震災 被災地の実態とその取り組み～そこから学ぶこと～」について話を伺いました。

東氏は阪神大震災で被災した神戸市長田区の商業復興に携われ、現在東日本大震災で被災した宮古市の復興に尽力されています。

宮古市では、商業は浸水になったところは自粛し、復興方針は10月頃に出るという状況にある。支援物資が最大のライバルとなり物が売れない一方、飲食・宿泊等の一部業種には特需がある。5月15日から週に3回朝会議を開催し、6月には宮古あきんど復興市

を行った。復興の展望としては、被災してから5年にかけては市営住宅、店舗付分譲集合住宅、災害復興住宅の町なか建築が行われ町なか居住が進むとしている。5年以降については人口減と衰退がのしかかり展望が全くわからないところであるが、長期ビジョンを立て、震災前よりも売り上げの上がる商店街づくりに目下奮闘しているところである。

また、長坂氏は、本年4月からより震災緊急復興事業推進部参事として東日本大震災の被災地である福島卸商団地への支援や大船渡市、陸前高田市、石巻市の商業復興に取り組んでおられます。

震災の実態と復興の取り組みから見たこれからのリーダーに必要な条件は、人間的な魅力、強い想い、行動力、腹が据わっていること、としておられます。また、震災後の我が国の地域活性化については、私たち

が変えなければいけないという認識をもち、短期的な視点だけの将来にツケを回そうとする事業はいずれ行き詰るため、これからは少子・高齢化、低成長を前提とした現実を直視した事業に取り組んでいかなければならない。地域が自立・活性化するには人を育てる視点が不可欠である。やる気をもって、知恵をだし、汗をかく、そんなまちづ

くりを行っていくことが肝要であるとおっしゃっていました。

その後、研究会第2部のワークショップにおいて、テーマ「商店（街）の集客力向上のための仕掛けづくり」について7名から8名の6班に分かれ、テーマに沿って意見を述べ、最後にその意見のまとめを各班の代表が皆に発表し今回の研究会を終えました。



8月からの夏の恒例イベントが開催

◎なら燈花会

今年もまた全国的に猛暑が続き、各地で記録的な暑さが続き熱中症のニュースが報じられたりしています。

この猛暑が続くなか、ならの中心市街地では、今年で13回目を数える古都奈良の夏の風物詩として定着している「なら燈花会」が8月5日から14日まで実施されます。



◆あるくん奈良まちなかバル

・**と き**…平成23年10月14日(金)午後6時～
平成23年10月15日(土)正午～

・**ところ**…JR奈良駅・近鉄奈良駅周辺の
参加協力飲食店等

・**内 容**…スペインの食文化を代表する
「バル」を奈良まちなかに再現し、
お店が出す「ワンドリンク+各店が趣向を凝らした
1品」をハシゴして歩くイベント



・**参 加**…どなたでも参加いただけますが、
バルチケットの購入が必要です

・**費 用**…チケット5枚綴り、前売(9月中旬から
10月13日まで)3,000円、当日3,500円

・**チケット販売スポット**…前売チケットはひがしむき
商店街事務所・もちいどのセンター街事務所
・奈良市中心市街地活性化協議会事務局など。
当日チケットは近鉄奈良駅ビル東側「行
基噴水広場」特設会場にて案内。

・**問合せ**…奈良市中心市街地活性化協議会

TEL: 0742-26-1666

平日の午前9時～午後5時

・「まちなかバル」ホームページ…

http://www.nara-cci.or.jp/~chukatsu/machinaka_bal/

※チケットWeb事前申込みを行う予定です
(9月中旬以降受付開始予定)。

